

検錯誤

最近、なんでもかんでも”検索”し、その結果を信用し、それを鵜呑みにしていることに気付いてしまった。例えば”確信犯”。元来、「自分自身の道徳的・宗教的および政治的な信念から、正しいと思い実施する行為」が犯罪となることを意味していると認識し、それが正しい解釈と”確信”していた。

しかし、近年、例えば、違法コピーの様に「悪いことと知りながら実施する行為」がそのまま犯罪となることが、”確信犯”の定義として定着していることを「検索」を通して知った。その上、例えば、「あの人ワザと遅刻してくるんだ」の様に、法律的な犯罪のみならず、公序良俗に反する行為までが、その範疇に含まれ、活用されている事実がある。

どっちが正しいのか。何れにしても、軽率には使えない言葉には間違いはないだろう。

「検索時」において、人間らしい誰もが行ってしまう”ヒューマン・エラー”は、

- 1) 【入力誤り】主に同音異義語。気付かずそのまま「検索」実行するケース。そもそも間違った認識や解釈の「キーワード」による「検索」もあり得るし、これに含まれる。
- 2) 【誤変換】意図した「キーワード」と違う文字(列)に気付かず「検索」する場合。
- 3) 【誤認識】「検索結果」が「偽・誤」を「真・正」と誤って認識するエラー、逆に「検索結果」が「真・正」にも関わらず、「偽・誤」と誤って認識するエラー。
- 4) 1) 2) 3) の何れかまたは、全てが輻輳してしまうエラー。

また、その「検索結果」においても、「フェイクニュース」の様に、その情報に対する「裏付け」が全く無いものや、単なる「個人的な見解を述べたもの」までが含まれている可能性があることから、「検索結果」の「真偽」の判断は全て「自己責任」となる。

もちろん「検索結果」の多くは、その人にとって「真」であり「正」であると思えるから、多くの人々が「検索」の利便性を享受し、利用し続けているのが事実なのであろう。また、「検索」機能が進化し、その利便性が、向上すればするほど、その依存性は、否が応でも伸張してしまい、その結果、中毒となってしまう可能性は十分にある。

さらに、AIが格段に進歩し、「検索」行為の持続により、その「サジェスト機能」が「貴方(私)の今日のやるべき事」や「貴方の克服すべき課題」や「人生の指針」までもを示唆・提案・助言するようになったと感じたら、もうその時点でAIの思想からは、逃れられなくなってしまうのではないかと察知し、その思想から逃れようと、何らかの行動を起こした瞬間、その蟻地獄に似たAIの思想の「罠」にどっぷりと嵌り込んでしまうのだろう。逃れようと、腕けば腕くほど、その深みに嵌るのではないかと。

知らぬが仏。当文と無関係な位置・状態にある方が、賢明であるのかも知れない。